

## 平成22年度図書館専門委員会会議録

- 1 日 時 平成22年6月15日(火) 午後2時から午後3時50分まで
- 2 会 場 愛知県図書館 5階 中会議室
- 3 出席者 委員8名(全員)、事務局(館長・副館長・資料支援課長・サービス課長、各グループ班長8名)、文化芸術課職員1名、企画グループ班員2名
- 4 傍聴者 なし
- 5 取 材 なし
- 6 会議録 以下のとおり

### 館長あいさつ

愛知県図書館の館長の本田でございます。委員の皆様方には、大変ご多忙のところ、愛知芸術文化センター運営会議図書館専門委員会にご出席いただき、誠にありがとうございます。

さて、今年は、「文字・活字文化振興法」施行5周年にあたることから、国民読書年と定められております。この法律では、「国及び地方公共団体は、公立図書館が住民に対して適切な図書館奉仕を提供することができるよう、司書の充実等の人的体制の整備、図書館資料の充実、情報化の推進等の物的条件の整備、その他の公立図書館の運営の改善及び向上のために必要な施策を講ずるものとする。」とされております。また、今年は、平成20年6月に改正されたました図書館法に基づき、現行の「公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準」施行から9年が経過し、その間の社会の変化に対応した「図書館の設置及び運営上望ましい基準」が文部科学大臣により定められるように聞いております。愛知県図書館としましても、厳しい財政状況ではございますので一層の経営の合理化に努めつつ、こうした動向を踏まえ、適切な図書館サービスに努めなければならないと考えております。

次に、既にご承知のことと思いますが、去る6月5日に、当館5階の男子トイレで放火によるボヤが発生いたしました。幸い、当日は多数の来館者がございましたが怪我人もなく、清掃用のモップなどが燃える程度で済みました。今回は、館内放送で安全を周知するなどの迅速な対応で、特に来館者の混乱はありませんでしたが、公立図書館は誰でも利用できる施設でありますので、利用者の安全のため職員一同が危機管理の向上にさらに努力してまいりたいと考えております。

本日は、愛知県図書館が県民の方々からより高い評価を得るために、忌憚のないご意見・ご助言をいただきますようお願いし、簡単ではございますがあいさついたします。

委員・事務局職員(副館長・資料支援課長・サービス課長)の自己紹介

会議の公開等について連絡

【議題1】委員長の選出について

- ・委員会開催要領第2条3項に、委員長は「委員の互選により選出する。」とあるので、出席委員の中から選出する旨、事務局から説明した。
- ・委員の中から、「宮崎真素美委員にお願いしたい。」という発言があり、各委員の賛同が得られたので、宮崎真素美委員を委員長に選出した。
- ・宮崎委員長から委員長就任の言葉があり、次いで、委員長代理として薬師院はるみ委員が指名された。
- ・委員会開催要領第2条の4項に、委員長は「専門委員会を総理する」とあるので、以後の議事は宮崎委員長が議長として進めることとなった。

## 【議題2】平成21年度事業について

### 事務局説明

#### ○平成21年度の主要な事業動向

##### 1 市町村立図書館等を介したサービスの状況

###### (1) 協力貸出、市町村立図書館間の相互貸借

- ・愛知県図書館のサービス計画では、前年度に続き特に重点をおいて取り組むサービスの一つとして、「市町村立図書館と連携し、県図書館の資料を全ての県民へ届けます。」を掲げた。その結果、県内図書館への貸出冊数は、前年比115.8%。県を經由した相互貸借冊数は前年比125.9%となっていて、数値目標を大きく上回っている。

###### (2) 市町村立図書館に対する人的サービス

- ・19年度から21年度まで、岡崎市に新図書館運営のため職員1名を派遣した。
- ・瀬戸市立図書館を始め、県内で実施された研修会等へ延べ12名の職員を講師として派遣した。また、東浦町立図書館の要望により、当館を会場として資料補修の研修を行った。

###### (3) 大学図書館、高校図書館との連携

- ・資料のとおり

###### (4) ないーぶネットとの連携

- ・21年7月に全国視覚障害者情報提供施設協会が運営する情報ネットワーク「ないーぶネット」に加入した。これにより、参加する各施設からオンラインでのリクエストが受け付けられるようになり、相互貸借による貸出タイトル数は、前年度38から281、借受タイトル数も、前年度1,633から2,085と大幅に伸びた。

##### 2 来館者サービスの状況

###### (1) 貸出、入館者、レファレンスサービス等の状況

- ・個人貸出は、図書474,120冊で前年比112%、AV資料76,035点で前年比106%と大きく伸びた。
- ・この結果は18年度からの資料費の増額や館内サービスの改善に取り組んだ成果でもあるが、厳しい不況を背景に、図書館の資料を利用することで、自身のスキルアップや生活の潤いを求められているのではないかと考えられる。
- ・レファレンスサービスも、39,094件で前年比109%と高い伸びを示している。

- ・積極的に資料紹介を行うパスファインダー「調べ方ガイド」を作成し、21年11月より配布している。
  - ・多くの統計指標が前年比を上回っているにもかかわらず、入館者数については、3%減の722,779人になっている。これは、新型インフルエンザの流行ため外出を控えられた結果とも考えられるが、インターネット等での資料の所在確認や予約資料の状況確認ができるため、確実に資料が入手できるのを確認して来館するなど、利用の方法に変化が生じていないかを見守る必要があると分析している。
- (2) AV資料の予約の開始
- ・資料のとおり
- (3) インターネットを利用したサービス
- ・オンラインでの予約件数は、40%増の10,692件。オンライン予約の広報により、予約制度の存在が改めてPRされた形となり、カウンター予約分も21%増加している。
  - ・ホームページの閲覧件数と蔵書検索は、ほぼ前年並み。16年度に行ったHPの全面改訂から5年が経過し、コンテンツの増加に伴い使い勝手が悪くなってきたことから、全面的なリニューアル作業を行った。
  - ・横断検索「愛蔵くん」は、22年3月に弥富市立図書館の参加をもって、図書館を持つ50市町村全ての検索ができることになった。
  - ・携帯からのアクセスも、139,457ページビューで前年比140%と増加しており、若年層を中心にインターネット利用が携帯で行われている傾向が認められる。
- (4) 児童に対するサービス
- ・利用者の関心を高めるために、新着図書やおすすめの図書を別置している。また、2か月ごとにテーマを変えて関連図書の展示と貸出しを行った。
  - ・児童図書の貸出冊数は、前年度より11%増の88,361冊。
  - ・おはなし会については、21年度から、ポイントを貯める「おはなし会カード」の発行を始め、10回参加した子どもには手作り賞品を渡すようにした。
- (5) 視覚障害者に対するサービス
- ・視覚障害者への対面朗読は、延べ利用者数が前年度の2倍の529人になっている。
  - ・視覚障害者資料の貸出は1,243タイトルで、前年に比べ僅かに減少したが、他施設からの借受けによる貸出は2,085タイトルで、28%の増加であった。
  - ・心身障害者への郵送貸出は、利用者数が286人で前年比150%、貸出冊数は786冊で前年比130%であった。
- (6) 各コーナーの状況
- ・資料のとおり（事業年報平成22年度を参照。以下同様）
- (7) 返却スリップの広告の導入
- ・貸出時に渡す返却スリップの裏面に広告を印刷して納品していただく方式で、返却スリップの作成費の削減となる。
- 3 資料の収集

(1) 資料選択基準の改訂

- ・「愛知県図書館資料選択基準」に重点サービス部門として、ティーンズコーナー、多文化サービスコーナー、ビジネス情報コーナーの3部門を追加改訂した。

(2) 図書の収集状況

- ・21年度は、合計25,473冊の図書を受け入れた。受入冊数は前年度並みで、18年度以降4年連続して同じ程度の水準を保っている。

(3) 新聞雑誌の状況

- ・21年度は、沖縄地方の新聞を新規に受け入れた。
- ・21年度緊急雇用創出事業基金事業として、「名古屋タイムズ」の14年1月から終刊となった20年10月までの刊行分をマイクロフィルムに撮影し、デジタル化した。

(4) AV資料の収集状況

- ・資料のとおり

4 図書館サポーター

- ・資料のとおり

5 図書館の催し物

- ・図書館を知っていただくための活動として、企画展示を27企画、関連する講演会・上映会等を14回開催した。
- ・他の団体との共催事業として10企画を開催した。
- ・バックヤードツアーである「図書館探検ツアー」を10回、図書館利用の初心者を対象に資料の並び方や検索の仕方などの愛知県図書館の使い方を解説する「図書館はじめて講座」を2回開催した。
- ・恒例となっている名画鑑賞会やおはなし会も、多数の参加者を得て好評を博している。
- ・4回目の開催となる「あいち子ども芸術大学」も、40名の定員に対して約2倍の87名から応募があった。

6 県内図書館の動向

- ・資料のとおり

7 図書館団体の動向

- ・資料のとおり

○ 平成21年度図書館専門委員会における提言事項への対応

1 20年度実施の「図書館運営手法等委託調査報告書」について

- ・調査は、県民生活部文化芸術課が行ったものだが、結論として直営が望ましいとした点については、図書館として評価できる内容と考えている。また、この調査報告書に基づき、昨年度県民生活部内での議論が行われ、県図書館の運営は直営とすることで合意されている。
- ・提言された内容についても、県図書館として行うべき役割を明確にし、必要最小限の職員でも運営できるよう、昨年度から館内に検討チームを作り、運営体制の検討を進めている。

- ・歳入の確保策についても、返却スリップへの広告の導入で、返却スリップの作成費の削減を図るなどしている。
- 2 全県民に対するサービスという観点から、事業報告や事業計画において市町村を通じてのサービスにもっとウェイトを置き、強く打ち出してほしいというご意見について
- ・今後もさらに市町村立図書館を介しての県図書館のサービスという観点を打ち出し、サービスの展開に努めたいと考えている。
  - ・なお、当館の事業活動等を報告する「事業年報」は、22年度版から事業報告の先頭に「市町村立図書館等を介してのサービス」を置き、県図書館のスタンスを一層明確となるようにした。

○「愛知県図書館 来館者アンケート」調査結果 平成21年度

- ・アンケートは今年度で5回目。質問項目は、各回の比較ができるように、同一のものとした。
- ・職業は、お勤めや自営業が半数を超え、月1回以上利用する人が8割以上となる。
- ・来館の目的では、「学校・受験・資格のための勉強」が32%と最も多くなった。詳しく分析したところ、30代の3割弱、40代で2割弱が目的としており、厳しい不況を背景に資格の取得のために利用されているのがうかがえる。
- ・4段階評価で尋ねた各サービスの満足度では、すべての項目で、「どちらかといえば満足」の3を越えた。特に、21年度サービス計画の数値目標としてあげた「全般的な満足度」は、目標の3.2を0.07ポイント上回った。

委員

愛知県図書館は県内市町村立図書館のハブ的な役割を担っていると聞いたが、資料にはこうした点は記されているのか。

事務局

典型的なものとしては、市町村立図書館同士の相互貸借資料を県図書館が仲介して送付していることがある。資料1のp. 1のグラフにある棒グラフが示している。またその背景には県図書館が運営する県内図書館横断検索がある。横断検索で資料を検索して、図書館同士がやりとりしあい、本を送る仕組みをつくっている。

委員

資料1のp. 10にある「入館者・貸出数推移」のグラフには、図書館同士の貸出冊数が含まれているのか。

事務局

p. 10のグラフは、直接来館した利用者に貸出した冊数だけを上げている。

委員

横断検索にはすべての市町村立図書館が参加したことになったのか。

事務局

図書館のある自治体すべてが参加している。

委員

レファレンスは、所在場所を聞くだけの簡易なものもあるだろうが、レファレンスの統計数字には、簡易なものではないものがどれだけあるのか。またどんな人がレファレンスを利用するのか。

事務局

即答できるレファレンスが大半を占めることは間違いない。

委員

カウンターで、対面するレファレンスと、メールなどによるレファレンスもあるのでは。

事務局

カウンター以外では、電話によるものがあり、これは即答できるものが多い。メールと文書によるものは、調査に時間が必要なものがほとんどになる。

委員

メールでのレファレンスの数は相当あるのか。

事務局

1日平均で、口頭98件、電話26件、メールを含む文書1.5件ある。

委員

図書館の催し物について、予算はどれだけか。

事務局

予算はほとんどない。チラシなどは用紙を購入して手づくりしている。

委員

講師の謝礼はどうしているのか。

#### 事務局

交通費は図書館が負担するが、共催事業とすることで、共催する団体に講師をお願いして謝礼は出していない。

#### 委員

「図書館を知っていただくための活動」について、予算があまりないということだが、インサイド的なアピールばかりで、もっとアウトサイド的に方法はないか。愛知県図書館の場所さえ知らない人がまだまだ多いと思う。半田市の新美南吉記念館がテレビ局とコラボレーションした企画をして大変よかった。音楽や他のものとのコラボで、朗読とか児童文学に入っていくきっかけをやってはどうか。

また、資料1のp.10にある貸出冊数が、13年度から14年度にかけて貸出冊数が急激に伸びている。13年に子どもの読書活動の推進に関する法律ができているが、これにより読み聞かせの需要が増えたと考えられないか。

#### 事務局

ご指摘のとおり、県図書館の情報や市町村立図書館の情報が広くいきわたっていないのが現状。今後も市町村立図書館との結びつきをより強固にし、ホームページ上での案内をつくるなどを検討する必要があると思う。

また、14年度の貸出冊数の急激な伸びは、制限冊数を3冊から6冊に変更した影響が大きい。

#### 委員

県図書館だけでなく図書館界全般的にヤングアダルト向けサービスに力を入れているようだが、県図書館では司書によるブックトークの派遣はかなりやっているのか。また、ブックトーク自体の研修もやっているのか。

#### 事務局

従来から、市町村立図書館や学校図書館からの依頼で派遣している。また、県の教育委員会が開催する学校図書館関係職員研修会にも講師として派遣している。ただ、ブックトークを実演できる司書が限られているので、限界がある。現状は担当になった者の自己研鑽に頼っているので、ブックトークの実演者を養成するための研修が課題になっている。

#### 委員

昨年度は県図書館からブックトークの研修に瀬戸市立図書館へ来てもらって大変成果があった。一人が研修に行くより、県図書館から講師が来てもらえれば、それぞれの図書館の実情にあわせて話が聞けるので、ぜひ今後も続けていただきたい。また、研修内容も、資料補修とか研修メニューを一覧にしてもらえると市町村立図書館としては助かる。

事務局

そういった研修メニューをつくっていきたいと思う。

委員

県立大学では、地域貢献の一つとして教員の専門分野を一覧にして情報発信することになったが、県図書館の司書も得意分野の一覧などを作って公表してはどうか。

委員

資料5の21年度の自主企画事業で、効果があったとか評判がよかったのはどれか。次年度の参考にするためにも、事業の一覧に評価欄をつけてはどうか。

事務局

ミニ展示を除き主要な企画展示ではアンケートをとっているので、ある程度の評判は把握している。講演会の参加者実績などの数字もあるので、評価については検討したい。

委員

「愛知の武将ここにあり」というパンフレットを愛知県が作って配布したようだが、かなり反響があったようだ。県図書館も県の中で横の連携も必要ではないか。

委員

企画事業は長いスパンで決めているのか、それとも飛び込みの企画もあるのか。

事務局

館内の各グループから人選した企画展示委員会が、年度当初に全体調整をしながら、おおよその年間計画を立案して行っているが、ノーベル賞受賞の展示のケースのように最新のトピックもフレキシブルに取り入れていくようにしている。ただ、ミニ展示なら可能だが、月一回の館内整理日にしか展示替え作業ができないので、あまりに急な対応はできない。

委員

昨日、探査機はやぶさの帰還が話題になったので、昨年やったJAXAの上映会をアンコール上映するといひ。

委員

貸出冊数などの統計は、前年度比だけでなく、他の都道府県立図書館の比較できる数字があるとよい。また、利用者アンケートによると、主婦の割合が低く男性の割合が多いが、これも県立図書館として普遍的なことなのか、愛知県だけが特別なのかを知る上でも、他県との比較が欲しい。

## 委員

親子で同じ本を読んで感想を書くという親子読書運動を地元の小学校でやっている。ティーンズコーナーにある掲示板もよいと思うが、児童室に親子読書の掲示をしてはどうか。

### 【議題3】平成22年度事業について

#### 事務局説明

##### ○平成22年度予算の概要

- ・厳しい財政状況により、前年度比85%の予算編成方針に対し、資料費は5%減に留めることができた。全体では前年度比91.9%の6億7,184万円。

##### ○平成22年度愛知県図書館サービス計画

- ・21年度の図書館サービスの評価及び22年度の図書館サービス計画の基本的な考え方については資料のとおり
- ・22年度も、昨年度のサービスの基本目標を引き続き行うようにし、重点を置くサービスとして、県民の生活や地域の経済活動に役立つ資料・情報を提供するなど5項目としている。
- ・数値目標については、資料・情報の提供など5つの目的に対し、全部で7項目をあげている。

##### ○平成22年度自主企画事業等実施計画

- ・今年度の企画展示はすでに終了したものを含め、企画展示は14件計画している。
- ・企画展示にあわせて、COP10の講演会や愛・地球博関係の上映会を予定している。
- ・共催事業を多く実施するのは、従来の図書館利用層とは異なる層の人々においていただく機会となるためである。
- ・資料にはないが、あいち子ども芸術大学の講座も11月14日に実施予定。

## 委員

サービス計画で、「市町村立図書館と連携し、全ての県民への資料の提供に努めます」とあり、また市町村立図書館としても、協力貸出・相互貸借により互いの資料を有効活用するためにも県図書館の市町村立図書館振興費の減額が心配だが、通函の運行は大丈夫なのか。市町村でも図書館予算は今年度から苦しくなっており、県図書館の通函に頼るしかない状態。

また、同じくサービス計画の3(4)に「愛知県子ども読書活動推進計画(第二次)」が策定され、県図書館が行うべき方針が示されました」とあるが、これに対する数値目標などはないのか。

## 事務局

21年度予算では、ガソリン価格が高騰していた時期で、運送費の高騰が見込まれ割高に積算されていた。今年度予算はそうした状況にないので、予算額は減っているが実質昨年度並み。

事務局

当館のサービス計画では数値目標をあげていないが、「愛知県子ども読書活動推進計画（第二次）」の中に、「県図書館のサービスの充実」として盛り込まれているので、これを当館の目標にすると考えているが、数値としては出ていない。

委員

数値目標をどのように徹底していくのか。目標管理のPDCAのようなしくみで、上から下へおろしていくカタチはできているのか。

事務局

アンケートは年1回だが、それ以外の数値目標は統計数字なので、月々の数字の動向を把握しながら進捗を確認しつつやっている。

委員

そうすると、この数字はブレイクダウンして12ヶ月の数字になっているのか。

事務局

そういうことになる。

委員

国立国会図書館は、議員に対して調査や立法行為を補佐するようなレファレンスをやっているが、県図書館が県議会や県行政にそうしたレファレンスを行っているか。やっていなければ、今後やる計画はあるのか。

事務局

行政支援という課題は認識している。実際に各部局からの問い合わせにも応えているが、どの程度役立っているか心もとない。

委員

県図書館は県議会や県庁にも近いのに、なぜそのメリットを生かさないのか疑問である。そうした働きかけはしているのか。

事務局

県議会には議会図書室があり、そこに司書職員もいる。そこで受け止めたレファレンスで応えきれないものを県図書館が調査し、資料を提供することはしている。行政に対しても、以前こちらから提案したこともあったが、うまく話がかみ合わなかった。

#### 委員

市民への直接サービスばかり議論しているが、我々市民は行政へ託しているわけで、行政へのサービスも間接的に市民へのサービスだと思う。また、行政へのサービスは図書館の存在意義のアピールになると思う。

また、ハブ機能を持つ県立図書館として、直接サービスばかり議論してきたが、すべてを県図書館ができるわけではない。何をすべきか選ばなければならない。今後はシビアな選択が迫られると思う。そうした時、例えば児童サービスを鶴舞図書館に担ってもらうとか、役割分担があつて当然ではないか。そうして役割分担したあとに、県図書館は地の利を生かして、行政支援サービスをもっと意識してもいいのではないか。

#### 委員

限られた予算のなかで県図書館がすべてをやるのは重いものがある。得意な分野をそれぞれの図書館が発信してもらえればよい。ただ、発信する場の提供は、県図書館が主導権をもってやっていただきたい。

#### 事務局

他県で行政支援サービスに力を入れている図書館があることは承知している。また県庁・市役所とも近いことはポイントであることも認識している。ただ具体的なやり方を踏み込んで検討していないので、今後の長期的な課題として勉強させていただく。

#### 委員

数値目標がすべて100%以上の数字だとか、貸出冊数の5年前の33万冊が47万冊になったとか、この裏には図書館の努力と工夫があつたのだろうと感心させられた。そのうえ更に数字を上げるのは、予算の獲得には必要なのだろうが、胸が痛む思いだ。

図書館には、たくさんの人が手に取る本がある一方で、数年に一人しか使われない本もあるが、そうしためったに利用されない本をどれだけ持っているかで図書館の価値が決まるという話を聞いた。全国にここだけにしかないとか、全国に5館だけが持っているうちのひとつだとか、利用率だとか冊数だけでは量れない価値が図書館にはある。しかしながら、実際には数字で評価されないと予算が削減されてしまうのが実際だろうと思う。数字で評価できない代表が図書館ではないかという気がする。財政当局にそういう価値を理解してもらおう努力が必要ではないか。

#### 委員

返却スリップの広告導入は非常によい。県という施設でどこまでが許されるかということもあるが、経費削減になることは非常にいいことだ。

委員

広告は民間業者でも入れられるのか。

事務局

内部での検討はあるが、基本的には可能。

委員

愛知県がやっている「はぐみんカード」に協賛しているお店はどうか。「はぐみんカード」の浸透と県図書館の財政上もうまくいくかもしれない。

事務局

ほとんどの民間企業は大丈夫だと思う。広告の公募を現在も続けているが、セールスの努力が足りないせいか、なかなか応募がない。

#### 【議題4】その他

議長

この夏に愛知一中予科練総決起事件を題材にしたドラマがNHKで放送されるので、今年度実施計画の企画展示「戦争を読む」とうまくコラボレートできるといいと思う。

本日は活発な意見をいただいた。他にご発言もないようなので、これで閉会する。